

令和 4 年 5 月 20 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H04468

研究課題名(和文) 産業看護における家族支援教育モデルの構築とICT教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of Family Nursing Educational Model using ICT Program in Occupational Nursing

研究代表者

中谷 久恵 (Hisae, Nakatani)

広島大学・医系科学研究科(保)・教授

研究者番号：90280130

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、産業看護職が家族支援を学ぶ教育プログラムを開発することである。産業看護職が労働者へ行う16項目の家族支援技術を文献とインタビュー調査から抽出し、横断調査により探索的因子分析を行って3領域15項目の支援技術を生成した。これらの支援技術を学ぶ映像事例を制作して家族支援教育プログラムを開発し、産業看護職20人が登録して16人がeラーニングを完遂した。その結果、教育の前後では8項目が有意に「実践できる」という評価へ向上していた( $P < 0.5 \sim .01$ )。以上より、産業看護職が家族支援を行う技術は、eラーニングの家族支援教育プログラムによって学べることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

産業看護職は従業員の疾病予防や回復への支援を行う看護職である。援助の対象は家族や生活を含む場合もあるが、職域では家族とのかかわりまで求めない事業主も多く、家族へ介入する看護の機能は十分に発揮されていない。一方で、家族を単位とした支援は労働者のストレス問題を早期に解決できるという報告もあり、産業看護職が健康づくりのマネジメント力を発揮し、労働と生活を調和させた支援を高める教育が求められている。本研究の成果は、家族支援の実態から支援技術を抽出し、産業看護における家族支援教育モデルを構築し教育プログラムを開発して検証しており、実践に即した学術的意義や社会的意義を有していることである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an educational program for occupational health nurses(OHNS) to learn about family support. 16 items of family support skills that industrial nurses provide to workers were extracted from the literature and interview surveys, and 15 items in three domains were conducted by exploratory factor analysis through cross-sectional surveys. We created a video materials of learning 15 items of family support skills and developed a plan for a family support education program. 20 OHNS registered and 16 completed this e-learning. As a result, before and after the education, 8 items were significantly evaluated as "achievable" ( $P < 0.5$  to  $.01$ ). It was shown that the skills for OHNS to provide family support can be learned through an e-learning family support education program.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：産業看護 家族支援 eラーニング 映像教材

### 1. 研究開始当初の背景

産業保健師は事業場や健康保険組合等に所属し、疾病の予防や回復への支援を行う看護職である。援助の対象は従業員のみならず家族や生活を含む場合もあるが、職域では家族とのかかわりまで求めない事業主も多く、家族へ介入する看護職の機能は十分に発揮されていない。一方で、家族を単位とした支援は労働者のストレス問題を早期に解決できるという報告もあり<sup>1,2)</sup>、産業看護職が健康づくりのマネジメント力を発揮し、労働と生活を調和させたプライマリケアの発想を高める教育のあり方が求められている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、産業看護での家族支援の実態と支援技術を明確にし、産業看護における家族支援教育プログラムを開発することである。この目的における2つの研究からなる調査を行い、家族支援教育モデルを明らかにし、ICT教育プログラムの開発を行う。

(1) 研究1: 家族支援教育モデルの構成要素と背景要因を明らかにする目的で、4つの調査を行う。調査1は家族支援の文献調査、調査2は家族支援事例へのインタビュー調査、調査3は学習ニーズと家族支援の実態調査、調査4は産業看護先進国の視察調査である。

(2) 研究2: 家族支援教育モデルに基づくICT教育プログラムのあり方を明らかにする目的で、2つの調査を行う。調査5はICT教育の評価指標を明らかにするための家族支援技術の評価項目の明確化、調査6はeラーニング実施と学習到達度の評価である。

### 3. 研究の方法

(1) 産業看護職が家族支援を行った文献での事例と実際の産業看護職へのインタビュー調査および産業看護職への横断調査から、労働者へ行う家族支援の援助技術を明らかにした(研究1)。まず、欧文と邦文の文献から得られた家族支援の技術をアイテムプールとし、5つの領域からなる17項目を案として抽出した。この17項目をもとに、産業保健師への個別インタビュー調査を行って、家族支援の実践と支援技術のマッチングおよび技術表現の適切性について確認した。11名の産業保健師が40事例の実践事例について語った支援技術は17項目のいずれかに該当し、非該当の項目はなかった。表面妥当性として不適切な3つの領域名と12項目の支援技術の表現を修正して、5領域からなる16項目を精選し、これらの支援技術の因子的妥当性を横断調査から明らかにした。さらに、産業保健での看護職がプライマリケアの視点で活動しているフィンランドとタイ王国での看護を視察調査し、日本でやっている家族支援の実態と諸外国での家族支援を比較して、欠落している実践での支援内容や、基礎教育と現任教育での教育上の重要な視点が見落とされていないかを検討し、教育プログラムに必要な要因をまとめた。

(2) 家族支援の質的調査と横断調査、産業看護先進地の視察調査からなる研究1の結果を整理して、家族支援教育プログラム案をADDIEモデルに沿って構築した(研究2)。まず、家族支援を学ぶ映像事例のシナリオを作成し、産業看護の経験が20年以上の看護職を招聘し専門家会議による意見交換を行い教育用の映像事例を制作した。次に、これらの映像事例から支援技術を意識して学ぶコンテンツを設定して、パイロットスタディを行い、映像教材のわかりにくい描写やコンテンツの出題方式を参加者の意見を参考に修正し、家族支援教育モデルに基づくICT教育の本実施を行った。対象は産業看護職の職能団体とスノーボールサンプリング式での受講者357人を対象に依頼し、任意で匿名で登録した20人

であり、このうち4人が脱落し16人が完遂して評価のアンケートまでを回答した。この結果より、eラーニングで行う家族支援教育モデルとICT教育での評価を行った。

#### 4. 研究成果

授業設計のプロセスに基づく研究と授業設計を図に示した。研究1の最終段階となる家族支援技術を明らかにした横断調査では、アンケートの回収は133人(回収率35.6%)で、産業看護の経験年数は平均14.0±10.7年、免許は保健師86.4%、看護師13.6%であった。支援技術の因子分析は欠損値がない120人を解析し、相関( $r = .905$ )が高い1項目を除き最尤法バリマックス回転により15項目3因子の因子構造が得られた。第1因子と係数は[仕事に影響する家庭の健康問題があれば従業員の話を聞く][この健康問題は家族の協力が欠かせないことを従業員へ伝える]など【家族が関連する健康問題の顕在化;0.922】、第2因子は[家族が従業員の健康問題をどう受け止めているかを確認する][従業員が就業を継続できるよう家族の健康問題に関わる]など【健康問題の解決に向けた従業員と家族との交流;0.925】、第3因子は[家族の健康問題を地域の社会資源へとつなぐ]など【地域の社会資源を利用した健康問題の改善;0.875】であり、15項目の係数は0.955であった。研究2では、この家族支援技術を評価指標として、eラーニングでの本実施を行った。その結果、表に示すようにeラーニング後には15項目中8項目が有意に「実践できる」という評価へ向上していた( $P < 0.5 \sim .01$ , 表)。以上より、産業看護職が家族支援を行う技術は、eラーニングの家族支援教育プログラムによって学べることが実証された。

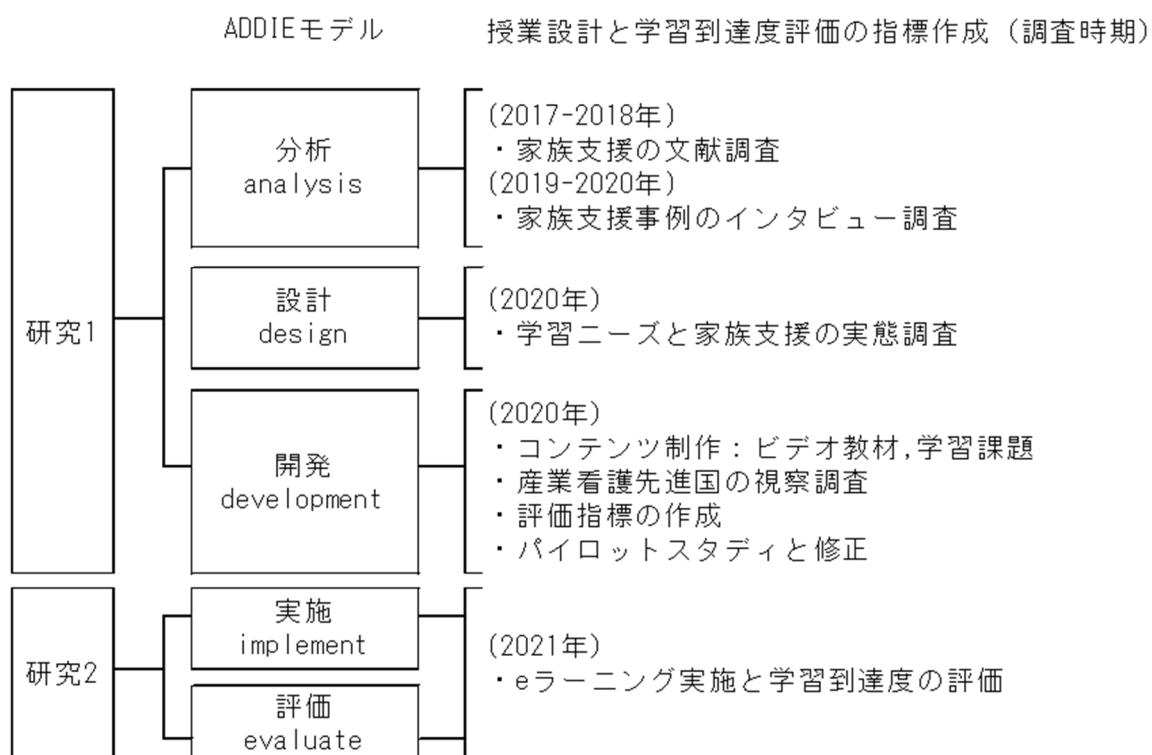


図 研究と授業設計のプロセス

表 家族支援技術を学ぶ教育プログラム実施後の評価

家族支援技術の項目		eランニング前後比較 P値
	1 仕事に影響する家庭の健康問題があれば従業員の話を聞く	0.679
	2 従業員から家庭の健康問題で悩み事の相談を受け入れる	0.783
	3 家族の健康問題をわかりやすく言語化して従業員と共有する	0.121
家族が関連する健康問題 の顕在化	4 従業員の家族の健康問題を上司が理解できるよう説明する	0.886
	5 従業員の健康問題は職場だけでなく家庭生活にも目を向ける	0.046 *
	6 この健康問題は家族の協力が欠かせないことを従業員へ伝える	0.327
	7 従業員に家族の健康問題を上司へ伝える同意をとる	0.013 *
	8 家族に従業員の健康問題の知識を伝える	0.073 *
	9 家族が従業員の健康問題をどう受け止めているかを確認する	0.018 *
	10 従業員と関わる方法を家族と統一する	0.396
健康問題の解決に向けた 家族との交流	11 従業員が就業を継続できるよう家族の健康問題に関わる	0.018 *
	12 従業員に健康問題を家族と共有する同意をとる	0.041 *
	13 家族のために活用できる職場の制度を従業員へ説明する	0.074
地域の社会資源を活用し た健康問題の改善	14 家族の健康問題を地域の社会資源へとつなぐ	0.002 **
	15 家族の健康問題が地域保健との連携で解決するかを調べる	0.024 *

注)Wilcoxonの符号付順位検定, \*P < 0.05, \*\*P < 0.01

<引用文献>

- 1) 錦戸典子, 豊田加奈子, 地域・職場における心の健康の現状と対策 連携・協働の強化に向けて、保健の科学、54 巻、2012、292-298
- 2) 有吉浩美, 洲崎好香, 海外赴任者とその家族への健康支援体制の構築、産業看護、1 巻、2009、634-635

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 中谷久恵, 津田紫緒
2. 発表標題 産業保健における家族支援に関連する専門職の国際比較調査
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷久恵, 藤田麻理子, 津田紫緒
2. 発表標題 産業保健師が行う家族支援技術と内容妥当性
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷久恵, 藤田麻理子, 津田紫緒
2. 発表標題 産業看護職が行う家族支援技術の因子的妥当性
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shio TSUDA, Hisae NAKATANI, Akiko KANEFUJI, Mari KARIKAWA
2. 発表標題 Family Nursing Approaches in Occupational Health Nursing: A Literature Review
3. 学会等名 The 32nd International Congress on Occupational Health (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisae Nakatani, Shio Tsuda, Akiko Kanefuji, Mari Karikawa, Uiko Nakata
2. 発表標題 Skill of Occupational Health Nurse to Intervenes to Support Health Crisis for Workers and Families: A Literature Review
3. 学会等名 7th World Congress of Clinical Safety (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisae Nakatani, Akiko Kanefuji, Mari Karikawa, Uiko Nakata, Shio Tuda
2. 発表標題 The Role and Approaches of Family Nursing in Occupational Health Nursing : A Literature Review
3. 学会等名 The 5th International Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 津田紫緒, 中谷久恵
2. 発表標題 産業保健看護職者の専門教育制度の国際比較
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田麻理子, 中谷久恵
2. 発表標題 産業看護職の職務満足感に関連する要因
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中谷久恵、藤田麻理子、津田紫緒
2. 発表標題 産業看護職の家族支援への関心と学習ニーズの実態調査
3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	津田 紫緒 (Tsuda Shio) (00402082)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教  (12602)	
研究分担者	藤田 麻理子 (Fujita Mariko) (70754563)	広島大学・医系科学研究科(保)・助教  (15401)	
研究分担者	金藤 亜希子 (Kanefuji Akiko) (80432722)	広島大学・医歯薬保健学研究科(保)・助教  (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------